

JAL の A350-1000 初号機、初飛行を実施



初飛行テストで離陸する JAL の A350-1000 初号機

日本航空（JAL）の A350-1000 初号機が 10 月 23 日に仏トゥールーズで初飛行を実施しました。

JAL の A350-1000 初号機は生産工程の最終段階に入り、さらなる地上および飛行テストを実施した後、JAL へ引き渡されます。同社はまず羽田とニューヨークを結ぶ路線に A350-1000 を就航させる予定です。

JAL の新たな国際線旗艦機となる A350-1000

は、4 クラスの快適な客室に合計 239 席を備えます（ファーストクラスが 6 席、ビジネスクラスが 54 席、プレミアムエコノミークラスが 24 席、エコノミークラスが 155 席）。

JAL は A350-1000 を合計で 13 機導入します。現在は 16 機の A350-900 を国内の基幹路線で運航しています。

A350 ファミリーは世界最新のワイドボディ機で、

最先端技術と最新の空力設計によって比類ない効率性と快適性を実現しています。新世代エンジンと最新素材を採用し、優れた燃費性能を備えます。また、旧世代機と比較して騒音影響範囲を 50%削減し、同クラスで最も静かな航空機です。

contents

JAL の A350-1000 初号機、
初飛行を実施

国産 SAF 促進団体「ACT FOR SKY」
に加盟

民間航空機事業の CEO に
クリスチャン・シェーラーを任命

ユナイテッド航空、
A321neo を 60 機追加発注

キャセイグループが
A320neo ファミリーを 32 機発注

ターキッシュ エアラインズが
A350-900 を 10 機追加発注

ハンブルクに A321XLR 向け装備工場
を新設



最終組み立てを完了し、工場からロールアウト

国産 SAF 促進団体「ACT FOR SKY」に加盟

エアバスは国産の SAF（持続可能な航空燃料）の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に加盟しました。

ACT FOR SKY のメンバーとして、SAF に関する技術的な知見を提供し、研究開発に協力していきます。

これまでエアバスは、国内初のヘリコプターによる SAF を使用したデモ飛行を 2022 年 6 月に名古屋空港で中日本航空株式会社と協力して実施。また、エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンの神戸空港施設において、国産 SAF を使用したヘリコプターの試験飛行も行っています。

さらに今後も、SAF を搭載したエアバスの特別輸送機ペルーガ ST を使用し、ヘリコプターや航空機の大型部品などの輸送も計画しています。エアバスは ACT FOR SKY に参加することで、国産 SAF の盤石なサプライチェーン構築を支援します。

エアバスのノースアジア地域代表兼エアバス・ジャパン株式会社の代表取締役社長ステファン・ジューは次のように述べています。「ACT FOR SKY に加盟したことを嬉しく思います。私たちは、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするという航空業界の脱炭素化の取り組みにおいて、主要な手段の

ひとつとして SAF の利用促進を支援しています」

「エアバスの航空機はヘリコプター等を含むすべての製品が、燃料に SAF を 50% 使用して飛行することができます。さらに、2030 年までには SAF の 100% 飛行の実現に取り組んでおり、2030 年までに航空機の SAF の利用を世界全体で 10% に増加する目標の達成に尽力しています」

ACT FOR SKY は、国産 SAF を促進するために

「ACT = 行動を起こす」意志を持つ企業が協調・連携し、SAF やカーボンニュートラル、資源循環の重要性を訴えながら市民・企業の意識変革を通じて、行動変容につなげていくことを目指しています。2022 年 3 月に日本企業 16 社によって設立され、現在エアバスを含む 31 社が加盟しています。ACT FOR SKY の詳細については、<https://actforsky.jp> をご覧ください。



SAF を使用したペルーガによる大型貨物輸送を計画

民間航空機事業の CEO にクリスチャン・シェーラーを任命

エアバスは取締役会における組織変更を発表し、民間航空機事業の CEO にクリスチャン・シェーラー

を任命しました。

エアバスのギヨム・フォーリ CEO は次のように述べています。「2019 年からエアバスとその民間航空機事業を統括する役割を統合し、様々な危機と変化に対して一体となって迅速に取り組んできました。エアバスは〈安全で繋がりあう世界のために持続可能な航空宇宙の未来を切り拓く〉というスローガンを掲げており、これからその目標実現に向け事業を加速していきます。クリスチャン・シェーラーが民間航空機の CEO に就任することで民間航空機事業の成長を促進し、私はエアバスの CEO として急速に変化し続ける複雑でグローバルな課題に対応するため、エアバス全体の舵取りに専念することができます」。さらに、「クリスチャンと

はこの 5 年間、一丸となって仕事に取り組んできましたが、新たな体制になってもその関係は変わりません。信頼できる彼とともにエアバスのさらなる発展へ向けて踏み出すことを嬉しく思っています」

クリスチャン・シェーラーは次のように述べました。「航空業界にとってこのような重要な時に、民間航空機事業の指揮を執る役目を与えられたことは大変光栄です。今後もエアバスのチームと共に顧客サービスに注力して目標達成に努め、事業の成長を盤石にし、継続的な改善を図り、製品とサービスの発展に向け邁進します。そして私たちは世界中のパートナー、サプライヤーと緊密に協力し、航空業界の脱炭素化に向けたロードマップに取り組んでいきます」

新組織体制はエアバスの従業員と協力して数ヶ月かけて構築し、2024 年 1 月 1 日を目前に始動する予定です。



クリスチャン・シェーラー

ユナイテッド航空、A321neo を 60 機追加発注

ユナイテッド航空が A321neo を 60 機追加発注しました。既存の保有機に新型機を投入すること

で世界的なネットワークを拡充、強化し、当社が取り組む「ユナイテッドネクスト」を支援します。

ユナイテッド航空はこれまで、A321XLR を 50 機、A321neo を 70 機発注しています。今回の新たな発注により、当社がエアバスから直接購入する A321 ファミリーは合計 180 機に増加します。

A321neo は、同クラスで座席あたりの CO₂ 排出量が最も少なく、優れた環境性能を提供します。そのため、ユナイテッド航空の CO₂ 排出量削減に向けた取り組みに貢献します。

ユナイテッド航空の A321neo にはエアバスの革新的客室「Airspace」が採用され、独自のウェルカムエリアや最新 LED 照明（時差ぼけの軽減に貢献）を完備。壁のパネルがスリムになり、肩の高さでより広いスペースを確保しています。再設計された窓に、新しい大型の頭上荷物棚など、多くの面で機内の快適性を大幅に向上しています。



A321neo を 60 機追加発注したユナイテッド航空

キャセイグループが A320neo ファミリーを 32 機発注

香港のキャセイグループが A320neo ファミリーを 32 機追加発注しました。同社は継続的に保有機材の拡大と近代化に向けた投資を行っています。今回の発注によりグループの A320neo ファミリーに対する発注数は 64 機に増加し、うち 13 機はすでに引き渡されています。

発注された 32 機は A321neo と A320neo で、キャセイパシフィック航空と香港エクスプレスの機材に加わります。主に中国本土とアジアの都市に就航します。



A320neo ファミリーを追加発注したキャセイグループ

ターキッシュ エアラインズが A350-900 を 10 機追加発注



A350-900 を追加発注したターキッシュ エアラインズ

トルコの国営航空会社であるターキッシュ エアラインズが A350-900 を 10 機追加発注しました。これにより同社の A350-900 に対する合計発注数は 40 機に増加しました。ターキッシュ エアラインズは 8 月にも 4 機を発注。現在は 14 機の A350-900 を運航しています。

A350 ファミリーは 9 月末時点で世界中の大手航空会社から 1,000 機以上の受注を獲得しています。世界最新の効率的なワイドボディ機で、300 席から 410 席市場における長距離用航空機のリーダーです。

ハンブルクに A321XLR 向け装備工場を新設

エアバスは独ハンブルクに A321XLR 向けの装備工場を新設しました。製造システムの近代化とデジタル化を促進することによって、生産拡大を実現します。エアバスは 2026 年までに A320 ファミリーの月産機数を 75 機に増加することを目指しています。

H259 と名付けられた新しい装備工場は、9,600 平方メートルの広さを持ち、A321XLR の後部胴体（ハンブルクの工場で製造）のすべて部品装備を行います。ロジスティクスの自動化、システムの完全デジタル化、各胴体セクションの現状の出力が常時可能なテストステーションなど、運用と製造における最先端の技術を導入しています。8ヶ所のステーションで構成される自動化された「パルス・ライン」で、約 24 メートルの長さの後部胴体に電気や機械システムを装備するほか、窓や床パネル、アンテナなどの取り付けを行います。後部胴体の部品装備が完了するとその場で徹底的なテストを実施します。テスト完了後、ハンブルクの最終組立ラインに移送されます。

この工場のステーションは、効率的な生産フローと人間工学的に最適で最新の作業環境を作り出すため、従業員との緊密な話し合いのもとに計画が進められました。また、工場内デザインに関しても、生産現場の従業員とサポート業務を行うチームが協力して最適な環境の実現に重点を置き、設計されました。

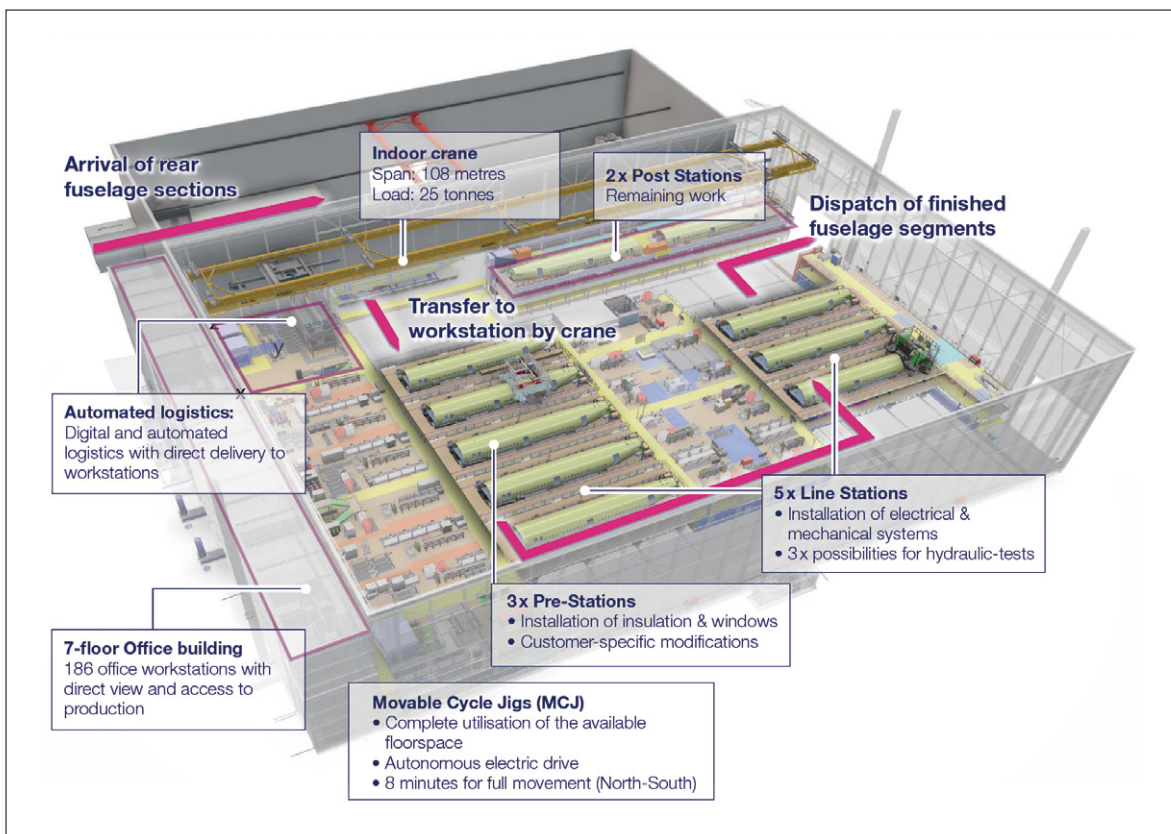
工場はまた、持続可能性に基づいて設計、建設されています。屋上に 3,000 平方メートルの太陽光発電システムが設置され、工場に電力を供給、余剰電力

は敷地内の電力に活用されます。南側のオフィス棟は、天井、壁の断熱によって優れた断熱性を実現

しました。暖房、換気、照明の全自動化も工場の持続可能性に貢献しています。



航続距離とペイロードを増加した派生型 A321XLR



A321XLR 向け新装備工場

2023年度9月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	18,643機	11,370機	10,658機
A300 / A310	816機	816機	264機
A330 / A340	2,186機	1,956機	1,665機
A350	1,046機	557機	557機
A380	251機	251機	232機
合計	22,942機	14,950機	13,376機